

奈良市公民館運営審議会会議録

令和5年2月15日会議

令和4年度第1回奈良市公民館運営審議会会議録

開催日時	令和5年2月15日(水) 午後1時00分から午後2時30分まで	
開催場所	奈良市役所 北棟4階 402会議室	
議 題 又は 案 件	1 新役員選出 2 令和3年度公民館事業の実施状況及び利用状況について 3 令和4年度公民館事業の進捗状況について 4 令和4年度公民館大会についての報告 5 その他	
出席者	委 員	東委員、虎杖委員、今西委員、奥村委員、杉山委員、橋本委員、伏浦委員、森委員、吉岡委員 【計9人出席】 (野田委員、福西委員は欠席)
	事務局	教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課長補佐、生涯学習財団事務局長、生涯学習財団事務局統括主任
開催形態	公開(傍聴人1人)	
決定事項	1 新役員の決定	
担 当 課	教育部 地域教育課	
議事の内容 ○教育長挨拶 ○【案件1】 新役員選出 虎杖委員が会長に推薦され、承認された。 会長が副会長に今西委員、杉山委員を指名し、承認された。 ○会議録の署名について 議事に入る前に議長から今回の署名委員の指名及び確認をした(奥村委員と森委員)。 ○【案件2】 令和3年度公民館事業の実施状況及び利用状況について 資料1 生涯学習財団事務局 令和3年度の公民館事業について以下のとおり説明 <ul style="list-style-type: none"> ● 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、5月中は原則臨時休館、主催事業も5月1日から6月20日までの開催を中止した。年度当初は件数・利用者数が減少傾向にあったが、公民館での活動を再開する人が徐々に増え、令和2年度と比較して 		

件数は 6.8%・1,601 件の増、人数は 21.8%・58,731 人の増となった。

- 公民館 24 館の利用人数については、主催事業が 34,349 人、施設提供が 296,578 人の合計 330,927 人であった。また、主催事業については、498 件・1,483 回を開催した。
- 三笠公民館では、『命をつなぐ支援の力』という講座を、生きづらさを抱える人への身近な支援を知ることを目的に全2回開催した。講座をとおして自分にできる支援について考える機会となった。
- 春日公民館では、『元気つながり倶楽部』という講座を、主催事業「市民と創る講座作戦会議」の中で出た「自宅に引きこもり孤独を覚えがちな高齢者が増えている。楽しみを見つけ積極的に外出したいと思える場を設けてはどうか」という意見を受けて、参加者同士が交流し、孤立感を和らげることを目的に、全 10 回開催した。簡単な体操やサイコロトーク等を実施し、予想以上の参加者が集まり、高齢者の新たな居場所として定着している。
- 京西公民館では、『笑顔を広げる学習会』という講座を、地域住民が主催講座を企画することで公民館事業に主体的にかかわる機会にすることを目的として開催。地域でボランティア活動をする人などの話を聞き、学習会を重ねる中で企画した主催事業「奈良少年刑務所 絵本と詩の教室」の運営にも携わってもらった。
- 二名公民館では、『できるを伸ばす！ 弁当の日～子どもだけで作ってみよう～』という講座を開催した。親子参加の講座だが、料理するのは子どもだけ、保護者は別室で講義を受けるスタイルというのが通常の料理教室とは異なる点。献立、買い物、調理、片付けまでを講師の指導のもと自分たちの力で全てやりきることで、達成感を味わい、親（保護者）への感謝の気持ちを感じる機会となった。また、保護者は子どもが料理をする上でどのように見守り、声掛けすることがよいかを知ること、子どもの自尊感情を高めることの大切さや自立心の育みにつながることを学んだ。

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ♧:回答

委員

♡ 公民館周年事業について、去年はコロナで実施が難しく、順延したところがあったが、工夫して今年度行われていた。各所で行われた周年事業の作り方がとても丁寧で、利用者と一緒に周年事業を作っているという職員からの働きかけが素晴らしかった。公民館を昔から利用してきた方が登壇されて、昔の公民館は…と振り返るいい時間があった。節目を大切にされていく中で、地区の方々が公民館を自分たちのものとされていくところがよかった。

委員

◆ 市民主体で企画されている事業に力を入れている印象がある。直接

講座を企画する場を拝見したことはないが、講座を作るにあたり乗り越えられているハードルがあり、大きな達成感、大きなやりがいを感じているように思う。こういう取り組みを蓄積していく中で公民館をまたいで講座を作ってみようという利用者と企画者との接点や交流などはあるのか。

生涯学習財団事務局 ☆ 現在、具体的な接点があるといったことは聞いてはいない。それぞれの公民館単体での動きとなっている。市民は1館のみの利用だけでなく、利用がきっかけとなって他の公民館を利用する人も多くいる。その経験を持って別の公民館を利用し、利用者と繋がる。目に見える経験実績はなくても利用者の輪は広がっているように思う。

委員 ♪ 横に広がっているというのはすごくいい成果になっていくと感じる。

委員 ◆ 公民館側が情報収集するのではなく、公民館利用者がひとつずつ情報提供して、公民館に提案する声上がる、常々の触れ合いからの意見を収集して企画する流れになっているのかとは思うが、そういう仕組みでの企画なのか。

生涯学習財団事務局 ☆ 今回紹介した講座は、元々あった主催講座の枠の中で「皆さんと一緒に講座を作ってみませんか？」といった企画があり、そこで参加した方が意見を寄せながら学習を重ねながら作った企画の内容。日々の業務の中で主催事業に参加された方や自主グループの方との関わり、ちょっとした会話や雑談の中に希望や学習のニーズなど、学習の種が落ちている。それを職員が引き出し、今後の講座につなげていきたい。

委員 ◆ 市民と作る講座の作戦会議など市民が主体的に動くようにと色々されている。そういった会議のファシリテートする役は職員がしているのか。

生涯学習財団事務局 ☆ 職員がやっているケースが多い。京西公民館は、地域でボランティアをやっている方からの話でイメージを膨らませた。市民主体で講座を企画した西部公民館・春日公民館は利用者の意見を職員が聞き、まとめるファシリテーター役を担っていた。

○【案件3】 令和4年度公民館事業の進捗状況について 資料2

生涯学習財団事務局 令和4年度公民館事業の進捗状況について以下のとおり説明

- 令和4年度もコロナ禍ではあるが、409 件・1,554 回の公民館主催事業を計画。
- 「開館 50 周年記念事業」について、コロナ禍により前年度開催を見送った公民館もあり、令和4年度は4館で開催した。たくさんの方の来館があった。
- 「世界の紛争について考える」講座を2館で実施。
 - 三笠公民館：ロシアによるウクライナ侵攻について、専門家による解説を聞き、平和について考える講座を実施。
 - 京西公民館：ロシアで通訳をしていたが、紛争により緊急帰国した京西地区出身の方によるロシアの歴史や日露間交流の話の聞き、報道では垣間見えない現在のロシア人の姿を知る講座を実施。
- 自主事業：指定管理料とは別に、助成金や委託費によって実施する事業。
 - 「キリン・地域の力応援事業」助成金
 - 中部公民館「つながりサポーター養成講座」：奈良市社会福祉協議会と協力し、行政・NPO・大学教授等の有識者を講師に、不登校・引きこもり支援や実践報告、支援者として必要な学びなどを具体的かつ実践的に学習。今後も公民館を実践的な学びの場として活用できるように講座開催や受講者の自主グループ化への働きかけを行う予定。
 - 奈良ひとまち大学：地域とのつながりが少ない主に20～30代の市民を対象に授業を開催。月に2～3回の通常授業のほか、年に1回の特別授業があります。
 - 奈良市家庭教育サポートネットワーク支援事業：子どもや家庭を取り巻く諸問題の解決を目指すための取り組みで、現在13の公民館で実施。
 - 飛鳥公民館「学校現場から見える子育て事情」：飛鳥小学校長より学校現場を通じた昨今の子育て事情を伺い、時代とともに変わる子育てを取り巻く環境や考え方の変化を学び、地域の子育てをみんなでサポートするために何が必要かについての学習会を実施。住民同士の交流の場が必要という課題が見えたため、実践的な解決策として「みんなで遊ぼう！ボードゲーム+α」を開催。ボードゲームや昔遊びなどをコミュニケーションツールにすることで遊びを通して世代を超えた交流を図る。

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ♧:回答

委員

- ♡ 三笠公民館の「女性に焦点を当てた防災講座」について。避難所での女性の危険度がかなり取りざたされており、防災会議では女性目線の

危険に関する意見がたくさん出ている。防災に関する考えが、地域拠点の公民館でも話題になっているのは良いと思う。

委員

◇ 登美ヶ丘南公民館の「英語で国際サロン」について。日本で子育てする外国人が増えている。子どもが幼稚園に入る前に日本に来て、言葉がわからない、それ以上に日本での子育てがわからない外国籍の人が増えていると肌で感じる。その地域の方の集まりやすい地区の公民館で気兼ねなく参加できる講座を企画するのはどうか。地域の拠点と子育て拠点が一緒になった親子への支援が公民館でも必要だと思う。

委員

◇ 地域の拠点である公民館でそういうサポートができればいい。公民館講座についても来年度以降に企画してもらえたらと思う。

委員

◆ 子育てで苦勞されている方は多いと思う。今や子育ては保護者(親)だけではなく、祖父母やそれ以外の方が養育している場合もある。子育てをする方の年齢の幅も広がっているため、資料のような分類分けは現代にあっていないのでは。「子育ては〇〇がしなければならない」ではなく「みんなで子育て」をする時代だからこそ、子育てをするみんなが集まれる企画といったものを考えてみてはどうか。

生涯学習財団事務局

◇ 分野に関しては公民館で色々な講座を展開するための目安として大きな区分を5分類に分けている。「高齢者のための…」、「女性のための…」という限定的な観点での講座は組んでいない。表にすると分類分けしているようにも見えてしまうため、今後はこちらからの発信の仕方に工夫が必要だと感じた。

○【案件4】令和4年度公民館大会についての報告 資料3

委員

以下大会について報告

- 令和4年度近畿地区社会教育研究大会〔奈良大会〕
第33回奈良県社会教育研究大会及び第69回奈良県公民館大会合同大会
＜研究主題＞
『人と人、人と地域を結ぶ、社会教育！』
～変化する社会に期待される社会教育をめざして～

開催日：令和4年9月2日(金)

会場：なら100年会館・ホテル日航奈良

委 員

以下大会について報告

- 第44回全国公民館研究集会和歌山大会及び第69回近畿公民館大会和歌山大会

<研究主題>

誰もが集う公民館～コロナ禍でも人はつながり、笑顔は生まれる～

開催日:令和4年11月10日(木)

会 場:和歌山城ホール

○【案件5】その他 **資料4・5**

事 務 局 奈良市男女共同参画センターの奈良市生涯学習センターへの移転について以下のとおり説明

- 奈良市男女共同参画センターは、男女の人権の確立を図り、社会のあらゆる分野へ男女が対等に参画し、それぞれの能力を発揮できる豊かで活力のある男女共同参画社会の形成を推進することを目的として設置されている。主に関係団体への貸館、講座の開催及び関係図書への貸し出しを行っている。令和5年4月1日に生涯学習センター2階の一部に移転予定。
- 移転に伴う変更内容として、団体交流室及びビデオ編集室については、公民館施設としては廃止し、男女共同参画センターとして位置づけ。交流スペースについては、男女共同参画センターの交流スペースとしても利用。なお、会議室については使用料を設定し、公民館施設として新たに貸館することとする。
- 移転後の奈良市男女共同参画センターの運用については、開館時間及び休館日は公民館に準ずることとし、料金形態についても、公民館に準じて部屋の面積をもとに設定する。
- 男女共同参画室は令和5年4月1日付けで市役所本庁へ移転。

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ♧:回答

委 員

- ◆ 来年度以降の託児室の運用はどのようになるのか。

事 務 局

- ♧ 運用の詳細については現在試行錯誤しているところだが、男女共同参画センターと生涯学習センターが相乗効果でお互いに良い影響を与えられるような施設を目指している。

委 員

- ◆ 指定管理者は生涯学習財団ということでよろしいか。

事務局	◇ 3月議会にて提案し、議会の承認を経て決定される予定のため、正式な決定はこれから行われる。
委員	◆ 男女共同参画センターが生涯学習センターに移転することに伴い、予約が取りにくくなることが考えられるが、貸館に関して平等に予約が取れるようにしていただけないか。
事務局	◇ 令和3年度の男女共同参画センター年間利用率は10%に満たない。このことから、公民館利用に大きな影響を与えるとは考えにくい。男女共同参画センターが移転してからも、公民館の利用についてはどちらかが不利になるということはなく、これまでどおり公民館ルールに則って同じ土俵で利用していただきたい。
委員	◇ 男女共同参画センターの移転に伴い、移転先の生涯学習センターのスペースは変わらないので、機能が積み重なった時に、利用者から今までどおりの活動ができるのかという不安や心配が出てくるのは当然。事前のプロセスをどれだけ丁寧に踏めるかが肝になる。また、移転先がなぜ生涯学習センターなのかという意義を利用者に説明していくことこそが不安を解消する鍵になる。現代的な課題として、多様性を尊重しあうような社会を共に作っていくという社会教育の役割が非常に大切になっている。利用者に意義を共有し、男女共同参画センターを生涯学習センターに位置付けることで、さらに私たちの公民館が前進するというビジョンが見え、利用者からも今後はこんな風にしたいたいという声が生まれてくるのではないか。
事務局	◇ 男女共同参画センターと生涯学習センターでは、利用団体に対して貸館をすることや講座や教室を開くという点が似ている。また、社会教育の中には人権やジェンダー、女性の活躍等が含まれることもあり、移転先に生涯学習センターがいいのではないかという結論に至った。当課としても、もう少し先のビジョンも含めて利用者の方に共有をし、より良いものを作り上げていくことが大事だと考えている。
委員	◇ 男女共同参画センターと生涯学習センターは、非常に相乗効果を狙いやすい条件下にある。希望として、今後の公民館運営審議会の中では、男女共同参画センターと生涯学習センターを全く別の施設として扱うのではなく、生涯学習センター全体として捉えたい。
事務局	◇ 公民館運営審議会の中で来年度以降の報告をどうするかについては、今後当課でも整理させていただきたい。

事務局 公民館をとりまく諸課題と今後の方向性について以下のとおり説明

- 社会の変化に伴って公民館に求められるものも変化している。今後の公民館の在り方を考える時期にきているのではないかと考えている。その中で、公民館をとりまく諸課題については、運営面であれば地域ニーズの多様化・複雑化、利用者の固定化、施設面では老朽化やバリアフリー化が進んでいないこと、維持補修が予算の面でも困難だということ、社会的背景については人口減少・少子高齢化、ICT 社会の到来が考えられる。
- 求められる新たな姿としては、運営面では地域のニーズに応じた社会教育事業を展開することや子育て世代・若者支援の充実化、施設面では効率的で効果的な施設運営、誰もが利用しやすい施設であること、社会的背景では人生 100 年時代を踏まえた街づくり、デジタルリテラシーを地域全体で高めることなどが考えられる。いま、生涯学習や社会教育はより大切だという局面にきている気がしている。今後の公民館を見据えて、改革や改善に取り組む必要がある。
- 奈良市ではいわゆる行政改革にも取り組んでおり、学校であれば子どもたちが少なくなる中で統廃合を行ったり、幼稚園は時代のニーズに合わないためこども園に作り替えたりと変革をしている。公民館がこれまで積み重ねてきたものや今後も引き継いでいかなければならないものはあるものの、新たな工夫や変化も必要。
- 目指すべき今後の公民館の方向性として、「地域や市民ニーズに寄り添ったより一層の生涯学習や社会教育の充実」、「様々な方法を取り入れた施設運営」を挙げている。たとえば年代に関係なくスマホの使い方などのデジタルリテラシーを高めなければ、場合によっては社会から切り離されてしまうので、これから求められるニーズについてより一層公民館で取り組まなければならないと考えている。また、地域からの要望で幅広い使い方をしたいということで今までに3つの分館がふれあい会館となっている経緯がある。施設管理については地域の方に参画いただき、中身については、それに伴う人的余裕で社会教育の専門である生涯学習財団が行うなど、限られた資源の中で施設を運営していく方法もある。

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ♧:回答

委員 ♡ 分館がふれあい会館となったことにより、利用者が少し増えてきている。料金は発生するものの、その費用で修繕費を賄っていたり、清掃業務についても地域の団体に年間契約で委託したりと収益事業のなかで上手にやりくりをしている。

委員	⇩ 求められる新たな姿はとても理想的だが、それに伴う予算の増額必要。
委員	⇩ いまは社会教育の面で公民館に協力してもらい、まずは地域力を上げたい。地域に任せたとしても地域人材がまだまだ育っていないので、受けたとしても維持はできない現状にあると思う。
委員	⇩ 若者が地域に繋がるきっかけとなるよう、公民館の情報発信は積極的にネットで行う取り組みを検討していただきたい。

資料	
	<p>会議次第 委員名簿 令和3年度事業資料 令和4年度公民館要覧及び事業資料 令和4年度公民館大会資料 奈良市男女共同参画センターの奈良市生涯学習センターへの移転について 公民館をとりまく諸課題と今後の方向性について</p>